

教科	商業	科目	財務会計 I	単位数	3
学年	2年	類型	流通経済科		
教科書 (出版社)	財務会計 I 新訂版 (東京法令出版)				
副教材 (出版社)	完全段階式 標準検定簿記問題集 (全商 1 級会計) (東京法令出版)				
授業の概要	1 簿記で学んだ知識や技術を基礎にして、株式会社及び財務諸表の作成などに関する知識や技術を習得する。 2 将来、社会や企業の一員としての立場から、財務諸表から得られる情報を活用して物事の判断能力や処理能力などを養う。				
授業の目標	1 会計の基礎的・基本的な考え方と技術、財務諸表の作成、その財務諸表の活用を理解する。 2 株式会社の会計を記帳処理する知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付ける。				
年間学習計画	学習内容 (単元・項目)		学習目標		
	1 学期				
	2 学期	第 I 編 財務会計の基礎 第 1 章 企業会計の意義と役割 第 2 章 会計法規と会計基準 第 3 章 株式会社の設立・開業と株式の発行 第 4 章 当期純損益の計上と剰余金の配当・処分 第 5 章 社債 第 6 章 株式会社の税務 第 II 編 貸借対照表 第 1 章 貸借対照表の概要 第 2 章 資産の意味・分類と評価 第 3 章 流動資産 第 4 章 固定資産 第 5 章 繰延資産 第 6 章 負債の意味・分類 第 7 章 純資産の意味・分類 第 8 章 貸借対照表の作成	<ul style="list-style-type: none"> 企業と会計、株式会社、会計法規と企業会計制度について、会計に関する基礎的な知識と技術について習得する。 会社法による、株式、資本金の内容と株式会社設立の記帳法を理解する。 資産、負債と資本、貸借対照表の作成について、貸借対照表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 資産の意味、分類、評価について理解し、具体的な例を用いてその処理法を習得する。また、減価償却については定率法、生産高比例法の特徴及び計算法を、繰延資産については、会社法上の繰延資産を学習する。 負債と資本について、それぞれの意味、分類について理解し、具体的な例を用いてその処理法を習得する。 資産・負債・資本に関する知識をもとに、区分表示された勘定式と報告式の作成方法を習得する。 財産法と損益法に触れ、損益計算の意味と考え方について理解するとともに、発生主義、実現主義などの損益計算に関する基準について理解する。 		
	3 学期	第 III 編 損益計算書 第 1 章 損益計算の意味と損益の区分 第 2 章 収益・費用の認識と測定 第 3 章 損益計算書の作成 第 4 章 その他の財務諸表 第 IV 章 財務諸表の活用 第 1 章 財務諸表の意義 第 2 章 財務諸表の見方	<ul style="list-style-type: none"> 営業損益・営業外損益、特別損益の概念を理解し、具体的な例を用いて分類や各項目の処理法を習得する。 経常損益と特別損益に関する知識をもとに、報告式の損益計算の作成方法を習得する。 財務諸表に関する意味、見方、連結財務諸表について、財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 連結財務諸表の目的および連結の範囲および連結財務諸表の表示方法について理解する。 		
観点別評価	関心・意欲・態度 企業会計の意味・役割や制度、財務諸表の作成、財務諸表からの情報を活用することなどの会計に意味を持ち、財務会計の学習に積極的に取り組もうとしているか。	思考・判断・表現 企業会計に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、工夫する能力を身に付けているか。	技能 財務会計の基礎・基本的な考え方と技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともにその成果を的確に表現しているか。	知識・理解 財務会計の基礎的・基本的な考え方と技術・財務諸表の作成、その財務諸表の活用を理解しているか。	
備考	「原価計算」とのまとめ取りにより、8月から3月まで実施する。 4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。 また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				